

再生可能エネルギーの現状

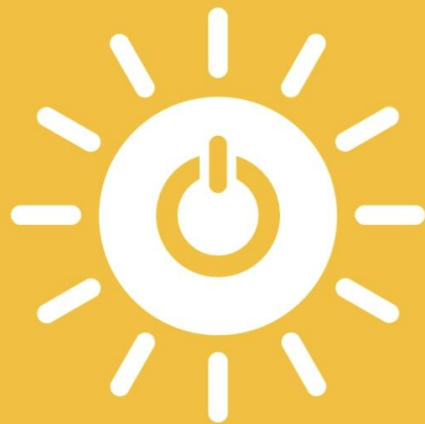
上田染谷丘高等学校 1年 櫻井幹也

関連SDGs

11 住み続けられる
まちづくりを

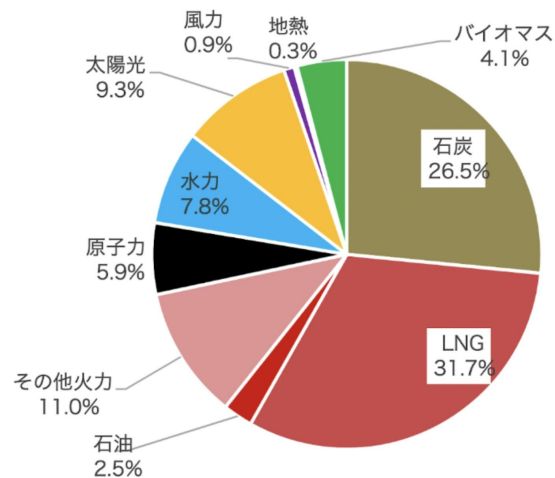


7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



現在の日本の電力供給状況 情報;アスエネメディア

- 日本における発電電力量は、2021年時点で化石燃料による発電が72.9%で、前年から3.5%減少しました。

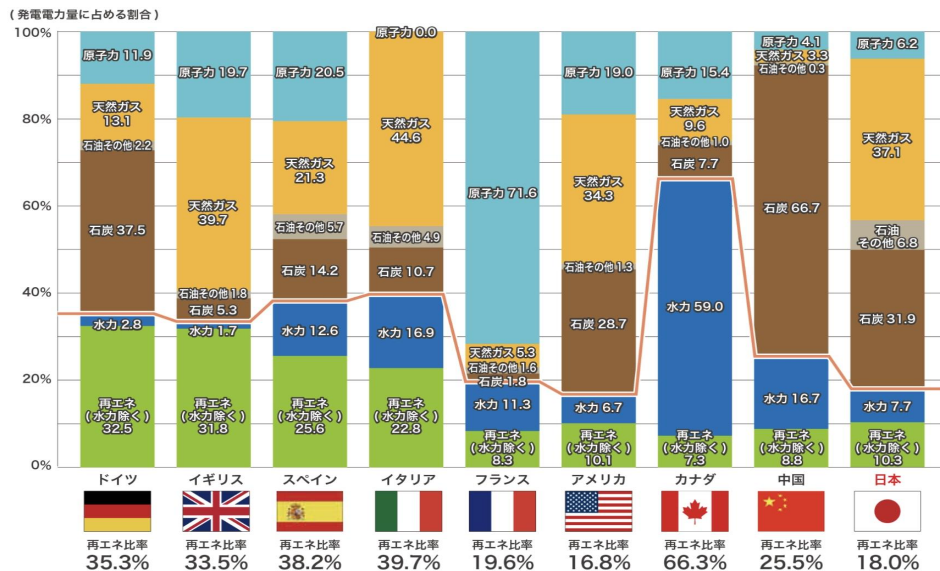


現在の日本の電力供給状況2 資源エネルギー庁

日本の再エネ電力比率は2019年度で、18%です。

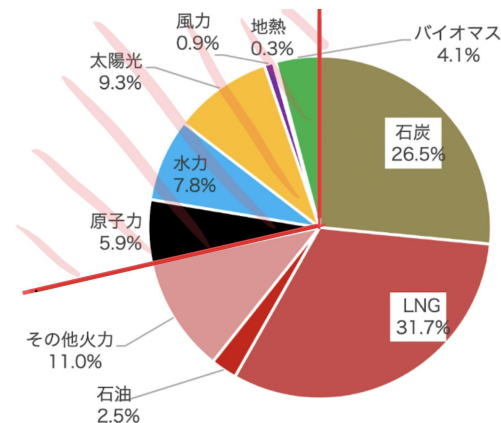
再エネ発電設備容量は世界第6位で、太陽光発電は世界第3位です

主要国の発電電力量に占める再エネ比率の比較



課題 情報:ゆめソーラー

日本には地熱資源量が多く、その量はなんと世界3位。しかし土地の権利調整や温泉地利用など複雑な問題が多く、活用できているのはわずか2%ほどとされている。



課題に対する提案

- 先ほどのスライドでは土地の調整が難しいと書いたが、それ以前に地熱発電は発電にかかるコストが高いのが地熱発電が普及しない原因の一つだと思う。発電設備の改良をすればもっと火力発電所が増えるのではないだろうか。

世界がしている努力

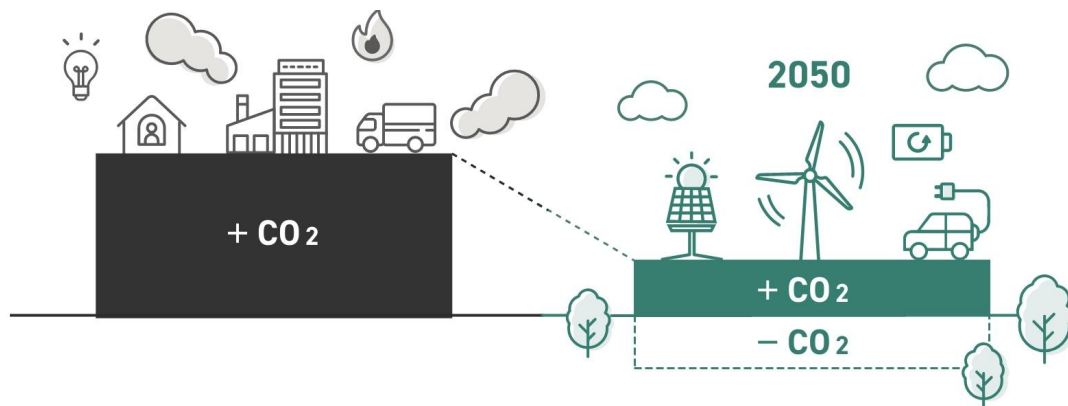
参考 関西電力

パリ協定により世界でカーボンニュートラルに注目が集まり、中でも再生可能エネルギー発電が進められています。日本は、2050年カーボンニュートラルを目指すことが宣言されました。

国名	1990年比	2005年比	2013年比
日本	▲18.0%	▲25.4%	▲26.0% (2030年までに)
米国	▲14~16%	▲26~28% (2025年までに)	▲18~21%
EU	▲40% (2030年までに)	▲35%	▲24%
中国	• 2030年までに2005年比でGDP当たりの二酸化炭素排出を60~65%削減 • 2030年頃に二酸化炭素排出のピークを達成		
韓国	• 2030年までに、対策を講じなかった場合の2030年比で37%削減		

カーボンニュートラルとは

- 温室効果ガスの排出を全体としてゼロとするというもの。
- 排出せざるをえなかった分については同じ量を「吸収」または「除去」することで、実質ゼロを目指している。
- 2020年10月、菅元総理は所信表明演説において2050年までに「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しました。

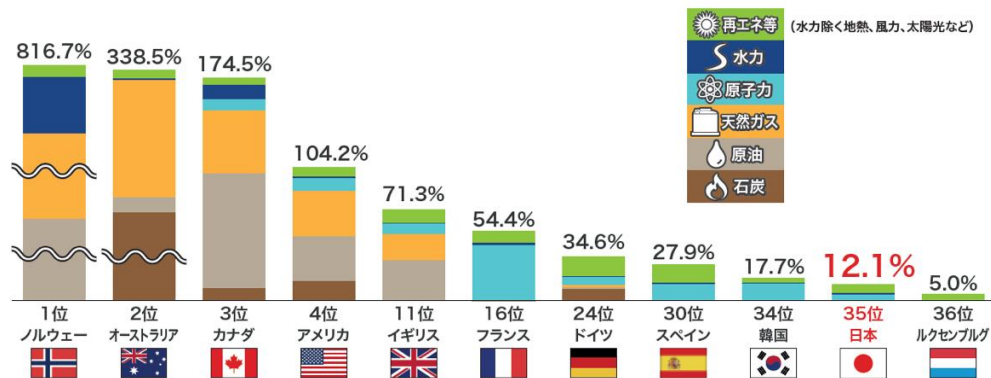


世界と比較して

- 日本は先進国の中でエネルギー自給率がとても低い

経済産業省参照

主要国の一次エネルギー自給率比較(2019年)

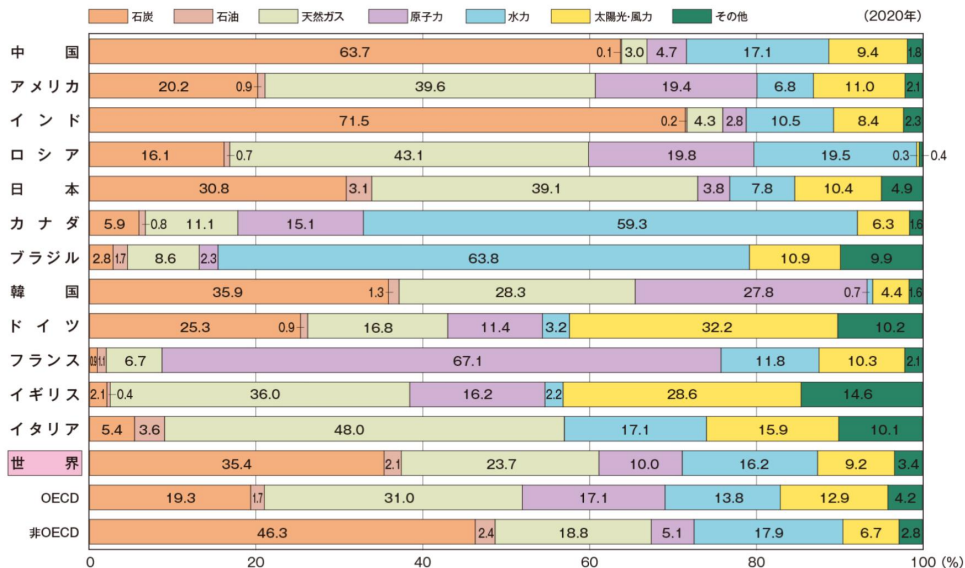


世界と比較して2

- 日本は世界の中でも先進国の中でも脱炭素が進んでいない
- 火力発電に頼り切っている

電気事業連合会参照

主要国の電源別発電電力量の構成比



個人的に思うこと

このままだと2050年までにカーボンニュートラル達成は難しいと思う。

最近では政府が取り組んでいるニュースもあまり聞かないし、数字としてもあまり成果が出ていない印象がある。

このままではいい訳がないように決まっている。輸入に頼りすぎると輸入相手との関係が悪くなったら輸入させてもらえなくなるかもしれない

もっと再生可能エネルギーの割合を増やすべきだ。

余談 ～面白い発電方法～: パーソナルクロステクノロジ

メタンガスで発電する方法を応用してこんなこともできる

